

「コロナ第10波に入った」の声…インフルと同時流行

1/26 読売新聞

新型コロナウイルスの感染状況について、厚生労働省は26日、全国約5000か所の定点医療機関から15～21日の1週間に報告された感染者数が1医療機関あたり12・23人だったと発表した。10人を超えるのは、昨年9月18～24日の1週間（11・01人）以来。専門家からも「新たな流行期『第10波』に入ったと言える」との声が出ている。

前週（8・96人）の1・36倍で、9週連続の増加となる。都道府県別では、福島（18・99人）が最も多く、茨城（18・33人）、愛知（17・33人）が続いた。

インフルエンザも1医療機関あたり17・72人で、前週（12・99人）の1・36倍となり2週連続の増加。

東京医科大の浜田篤郎特任教授（渡航医学）は「新型コロナは既に冬の流行期に入っており、『第10波』と言える。オミクロン株の新系統『JN・1』の拡大もみられ、今後の動向に注意が必要」と指摘する。国立感染症研究所の推計では、1月29日～2月4日の週には、JN・1が新規感染者の43%を占めるとされる。

塩野義製薬、せき止め薬「メジコン」増産へ…メーカー不祥事で供給不足深刻化

1/31 読売新聞



塩野義製薬は31日、せき止め薬の「メジコン」について、2024年に3・6億錠の生産を計画していることを明らかにした。22年の約2・2倍に引き上げる。ジェネリック医薬品（後発薬）メーカーによる不祥事が相次いだことで、せき止め薬の供給不足が深刻化しており、増産に踏み切る。

メジコンは医療機関で処方されるせき止め薬。昨年11月時点で、3・2億錠に増産する方針を明らかにしていたが、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の影響で品薄が続いており、さらに携わる人員を増強して積み増す。需要動向を踏まえ、生産設備の増強も検討するという。